道の駅那須高原友愛の森再整備基本計画書【概要版】

平成 29 年 8 月策定　那須町観光商工課

第１章　道の駅那須高原友愛の森の現状

（1）はじめに

道の駅那須高原友愛の森（以下「友愛の森」）では、来場者の増加により毎週末になると駐車場やトイレの不足が生じ、施設運営に支障を来している。また、農産物直売所の売場面積やレストランの客席が不足し、売上高も頭打ちとなっている現状であった。

そこで町では、平成 24 年度に隣接地約 1.7ha を取得し、既存エリアと合わせてさらなる道の駅の機能強化を図るべく、平成 26 年 7 月に整備目的やコンセプト、導入施設などを検討し、大筋の方針決定をした「道の駅那須高原友愛の森総合計画」を策定した。

その後、平成 27 年 1 月には、国際観光地として外国人観光客対応に向けた機能強化が期待されるとして、国土交通省の**『重点「道の駅」』**に認定され、国の支援を受けながら再整備を進めることになった。

本基本計画書は、「道の駅那須高原友愛の森総合計画」で定めた整備方針を踏まえ、さらに具体的な施設の規模や大まかな配置を定めた、今後の基本設計業を実施する上での基本となるものです。

第２章　再整備の基本的方向性

（1）道の駅那須高原友愛の森に関する課題

〇情報発信機能

・友愛の森から町内全域への周遊を促す波及効果のさらなる拡大。

・インバウンド観光に対応するための施設の不備。

〇休憩機能

・来場者の増加による駐車場不足。

・来場者の増加によるトイレ不足。

・来場者のための休憩場所の不足。

〇地域連携機能

・農産物直売所、なすとらん、物産センターの店舗面積の不足。

・地域の会議、研修、展示、イベントなどに利用できる多目的スペースの不足。

・観光入込客増加の起爆剤としての魅力向上。

〇防災機能

・災害時における地域防災拠点の不足。

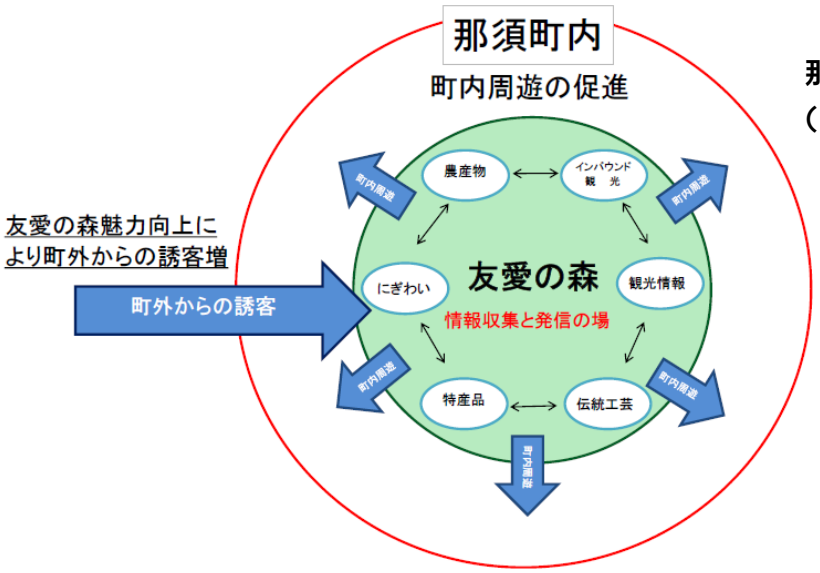
〇渋滞対策

・地域周辺の渋滞緩和。

（2）道の駅那須高原友愛の森再整備のテーマ

友愛の森の魅力向上を図ることで、町外からの誘客を増大する。
さらには、友愛の森を訪れた観光客の町内周遊を促進する役割を担う。

【～ 那須高原の総合ターミナル ～ （那須町観光の玄関口として）】



那須町内への周遊を促す道の駅（那須町観光の玄関口）

友愛の森は、地域活性化の拠点として、高原リゾートとしての上質空間とおもてなしを実現し、多くの方に那須の魅力をＰＲすることで町内の周遊を促す道の駅としての役割を担う。

（3）再整備の目標

- 友愛の森への来場者の増

  １１０万人（約３８万人の増）

友愛の森の魅力を向上させることにより、多くの人が立ち寄る道の駅を目指す。

- 町内消費額の増

  約８７億円（約３０億円の消費増）

友愛の森から町内への周遊を誘発することにより、観光業や商工業その他産業への波及効果（消費）の拡大を図る。

- 地域振興への寄与（友愛の森内における消費額増）

  約７億円（約２．２億円の消費増）

友愛の森内における町内産の農産物や那須ブランドの販売、那須の食の提供、伝統工芸の実演、体験、販売により、町の産業振興に寄与する。

（4）再整備の基本方針

施設の空間設計にあたっては、「那須らしさ」を表現した構成とし、上質な空間を演出するとともに、「にぎわい」を感じさせるスペースとする。

また、県道 17 号と県道 30 号を通行する車両からの施設の視認性を向上させることにより、立寄り車両の増加を図る。

整備計画の策定にあたっては、極力、既存施設の有効活用を図るとともに、新築する施設については必要最低限の建築面積とし、事業費の節減に努める。また、国の交付金などを積極的に活用し、町の負担額の軽減を図ることとする。

〇情報発信機能

・那須町の観光情報発信の拠点として観光交流センターの増築を行う。

・高速バス、周遊バス等の二次交通の発着点となるバスターミナルの利便性を向上させる。

・道の駅の利用者から設置要望の多い足湯を整備し、那須の温泉をＰＲし、町内温泉施設の誘客につなげる。

〇休憩機能

・来場者数の増加に対応するために、施設北側に駐車場（以下「北駐車場」）を整備する。

・北駐車場に近接する位置にトイレ（以下「北トイレ」）を新設する。

・自転車による町づくりを推進するため、サイクリストのための駐輪スペース及び休憩場を備えた拠点施設（以下「サイクルステーション」）を整備する。

〇地域連携機能

・農産物直売所、那須の食レストラン「なすとらん」（以下「なすとらん」）、物産センターを新たな施設（以下「新館」）に配置し、那須の食と食材の提供及び那須ブランドの販売促進を行う。併せて、来場者のための休憩場所を整備する。

・工芸館は、那須の工芸の魅力をＰＲするため、現在の施設の改修を行い、伝統工芸の実演・体験を充実させる。

・なすとらんを補完するための施設として、那須連山を眺めながらゆったりと過ごすことのできるカフェ及びレストラン（以下「カフェ・レストラン」）を新築する。

〇防災機能

・地域の防災拠点の一つとして、災害等の有事に対応可能な拠点「防災館」及び「防災ヤード」を整備する。

・「防災館」及び「防災ヤード」は、通常時においては多目的室及びイベント広場として活用する。

〇渋滞対策

・周辺道路状況の改善のため、県道 17 号と県道 30 号を連絡する町道整備を行い、道の駅周辺の渋滞緩和を図る。

第3章　施設計画

(1) 施設の再整備計画

１　情報発信機能

（１）観光交流センター

那須町の観光情報発信の拠点として、町内周遊を促進する仕組みを構築するため観光交流センターの機能強化を行う。現観光交流センターとアグリ情報館は引き続き利用することとし、不足する面積については増築で対応する。

また、Wi-fi 端末等の充実、外国語表記、免税カウンターの整備、外国人対応スタッフの配置等インバウンド観光対応のための体制を整備する。

（２）バスターミナル

現在、友愛の森内に出入りするバス（高速バス、周遊バス、近隣観光施設等の送迎バス）は、1 箇所の乗降場で対応しているが、特に大きな支障は報告されていない。

したがって、利用者への分かりやすさを配慮して、高速バス、周遊バス、送迎バスの発着所は、現在の施設を改修することにより対応する。

（３）足湯

平成 25 年度に行った利用者アンケートによると、33%の利用者が足湯・温泉の設置を希望しているため、那須の温泉をＰＲし、町内温泉の利用へとつなげる場として足湯を整備する。

２　休憩機能

（１）駐車場

目標である年間来場者 110 万人に対応可能な規模の駐車スペースを、北駐車場に確保する。駐車ますの大きさは利用者の利便性を考慮して広めにする。

歩行者通路は、ペット連れの来場者も含め全ての利用者が安全に場内を通行できるようにする。

既存の駐車場（南側、東側）は、新たに整備するのではなく、区画線の変更などで対応する。

（２）トイレ

目標である年間来場者 110 万人への対応と利用者の利便性向上のために、敷地北側に北トイレを新たに建設する。

トイレは、那須町の玄関口としてふさわしい清潔で明るいトイレにするとともに、身障者、乳幼児連れの家族、高齢者等誰もが安心して利用することがきるようにする。

夏場の暑い時期や冬場の寒い時期にあっても室内温度が快適となるようにするが、省電力、夜間電力の利用といった環境に配慮した設備を導入する。

（３）サイクルステーション

スポーツツーリズムを推進するため、サイクリストのための駐輪スペース及び休憩施設を整備する。駐輪場のほか、更衣室、簡易シャワー、休憩所、修理場等を設置する。

３　地域連携機能

（１）新館

新鮮な地元産野菜、地元の素材を活かした食、伝統工芸・文化、那須ブランドなど町の魅力をＰＲすることにより産業振興を促進する。

既存の農産物直売所、軽食コーナー、なすとらん、物産センターを新館内に集約して配置する。また、新館内にテナントスペース（店舗）、休憩スペースを併設する。

新館を、工芸館に近接する位置に配置することにより、工芸館への誘客を図る。

① 農産物直売所

農業振興施設として、現在、ふれあいの郷直売所組合が運営する農産物直売所を新館内に配置する。混雑時にもスムーズに買い物ができ、また、利用者がカートを押しながらすれ違うのに十分な広さを確保する。

併せて、出荷する農産物をスムーズに運ぶことができるようバックヤードを確保する。

②軽食コーナー

軽食コーナーを新館内に設置し、手軽に食べられる地場産の素材を使ったメニューを提供することにより、食材の魅力をＰＲする。

③なすとらん

現在、なすとらん倶楽部が運営する農村レストランを新館内に配置することにより、地元の素材にこだわった手作りの味を提供し、那須の食の魅力をＰＲする施設とする。

レストランは、那須連山を眺望することができるよう新館の北側に配置する。

④物産センター

新館内に物産センターを配置し、那須ブランド販売のほか、那須町の特産品の魅力をＰＲする場とする。

⑤テナントスペース

新館内にテナントスペース（店舗）を配置し、友愛の森内での消費額の増加を図るとともに、テナントスペースの貸付けを行い、貸付料を維持管理費の財源とする。

⑥休憩スペース

新館内の飲食施設に隣接して、休憩スペースを設ける。休憩スペースでは、ペット（犬）と同伴の方も休憩できる工夫を施す。

また、ゆったりと快適に休憩できるよう内装や照明等を工夫し、授乳、おむつ替えの設備等を整備する。

（２）工芸館

町伝統工芸の魅力をＰＲするため、実演・体験を充実させ、町伝統工芸の中心施設とするため現在の施設を改修する。

現在の１階販売スペースは現状程度とするが、２階は多目的ギャラリー等に改修するとともに、障がい者や高齢者のためのエレベータ等の設置を検討する。

（３）イベント広場（防災ヤード）

災害時の避難所として防災ヤードを整備する。

通常時は、那須の上質な自然にふれることのできる、イベント広場として利用する。

（４）カフェ・レストラン

那須連山を眺めながらゆったりと過ごすことのできるカフェ及びレストランを整備する。

カフェ・レストランでは、農産物直売所と連携し、野菜を中心とした地域の食材を生かしたメニューを提供する。

４　防災機能

（１）防災館

友愛の森は、平成 27 年４月１日に地域防災計画において広域避難場所に指定されている。緊急用物資等の集積機能、備蓄倉庫など、防災に関する機能を集約した施設を新設し、災害等の有事に町民及び観光客の一時避難が可能な場所とする。

通常時は、新館と隣接させることにより、集会場、研修室、ギャラリーなどとし活用する多目的スペースとする。

また、ソーラー電源等災害時に対応できるエネルギー供給システムの導入を研究する。

５　その他の施設

（１）アグリ情報館

アグリ情報館は、休日には地元ボランティア団体による語り部口演会が開催されるとともに、手作り品の展示販売スペースとして利用されている。

また、建物の外観デザインは友愛の森のシンボルとなっているため、内部を改装した上で引き続き活用していく。

（２）彫刻作品

昭和 63 年の彫刻シンポジウム開催時に設置された彫刻作品が、敷地内に多数現存していることから、これらの作品の取り扱いについても場内に移設するなど有効活用し、より高質な空間づくりを行っていく。

（３）急速充電器

場内に１基設置されている急速充電器は、年々利用者が増加している。整備の際には、全体の施設配置等を考慮し、利用増加に対応できるよう余裕をもったスペースを確保する。

（４）自動販売機

自動販売機は、友愛の森の景観を良好に保つために、場所を十分検討の上、最低限の設置とする。

（５）農業用水路

場内に茗ヶ沢水利組合の農業用水路が流れているため、用水の流れを妨げないように付け替え工事を行う。水路構造は、維持管理を考慮して開渠構造とする。

（2）導入施設規模一覧

施設名		規模		概　要	
北駐車場		5,000 ㎡	13,720 ㎡	普通車 147 台、身障者 3 台	新設
東駐車場		1,620 ㎡		普通車 39 台	既存
南駐車場		5,100 ㎡		普通車 97 台、身障者 3 台、大型車 9 台	既存
バスターミナル		500 ㎡			既存
従業員駐車場		1,500 ㎡		普通車 50 台	新設
南トイレ		480 ㎡		男小 10 器、男大 4 器、女子 14 器	既存
北トイレ		150 ㎡		男小 6 器、男大 4 器、女子 14 器	新築
サイクルステーション		150 ㎡			新築
足湯		50 ㎡			新築
観光交流センター		228 ㎡			増築
アグリ情報館		117 ㎡			改修
新館	農産物直売所	420 ㎡	1,500 ㎡		新築
	軽食コーナー	130 ㎡			
	農村レストラン	450 ㎡			
	物産センター	150 ㎡			
	休憩所	250 ㎡			
	テナントスペース	50 ㎡			
	トイレほか	50 ㎡			
工芸館		653 ㎡			改修
カフェ・レストラン		200 ㎡			新築

（3）動線計画

①渋滞対策

周辺の渋滞緩和のため、県道 17 号及び県道 30 号を結ぶ町道を友愛の森内に整備する。

② 周辺道路及び出入口について

北側出入口：主要地方道矢板那須線

・県道 30 号（主要地方道矢板那須線） 東行きの車線から右折流入する車両の滞留長を確保する。

・大型バスの出入りを考慮した県道との取付け形状とする。

③構内自動車動線

・身障者駐車場は、できる限りトイレや主要な建物に隣接させて設置する。

・管理車両動線は、敷地西側をメインとし、道の駅利用者の動線と極力分離する。

第4章　スケジュール及び事業費

(1) スケジュールと年度事業費

区分	年度	事業内容	概算事業費
第1期工事	平成２９年度	基本計画（全体）、基本設計（全体）、境界確定	０．５億円
	平成３０年度	実施設計（観光交流センター）、急速充電器移設、既存建物解体、除染土移設、樹木伐採・粗造成	０．９億円
	平成３１年度	**実施設計（新館、北トイレ）**、観光交流センター新築、アグリ情報館改修、受変電施設改修、既存建物解体、樹木伐採・粗造成、彫刻移設、**駐車場整備（北・東）バスターミナル整備**、**町道整備**、**調整池整備**	３．２億円
第2期工事	平成３２年度	**新館建築（１年目）**、**北トイレ（浄化槽含む）整備**	６．２億円
	平成３３年度	実施設計（防災館、サイクルステーション）、**新館建築（２年目）**、南駐車場整備、従業員駐車場整備、イベント広場整備、構内道路整備、	３．７億円
	平成３４年度	実施設計（**カフェ・レストラン**、足湯）、防災館整備、サイクルステーション整備、工芸館改修、植栽工事	２．２億円
	平成３５年度	**カフェ・レストラン整備**、足湯整備、南トイレ改修、サイン整備	１．２億円
		合計	１７．９億円

※黒字・アンダーラインは社会資本整備総合交付金及び農山漁村振興交付金を活用する事業

(2)　再整備に要する事業費

○再整備に要する事業費は現時点で約 17.9 億円と試算されるが、町債により財源を確保しつつも、町の財政負担を可能な限り軽減するよう国の交付金等を有効に活用していく。
現時点で活用を考えている国の交付金は次のとおり。

省庁名	交付金等名	補助対象箇所
国土交通省	社会資本整備総合交付金	・町道　・駐車場（北、東） ・北トイレ（浄化槽含む）　・調整池
農林水産省	農山漁村活性化交付金	・新館　・カフェレストラン

○平成 31 年度までに第１期工事を終了する。第２期工事については、事業費が多額となるため、財政状況を考慮しながら工事を実施していく。
○設計・工事の際には、最大限の経費節減に努める。

再整備に要する事業費の見込み（概算）

事業内容	事業費
調査設計費 （測量、基本設計、詳細設計、実施設計、工事監理等）	２．３億円
新築 （新館、観光交流センター、北トイレ（浄化槽含む）、防災館、カフェ・レストラン、足湯、サイクルステーション）	１０．９億円
改修・移築・解体費 （工芸館、アグリ情報館、南トイレ、急速充電器、受変電施設、ふるさと物産センター、なすとらん、長屋門、展示棟、農産物直売所、管理人住宅）	１．０億円
外構工事 （樹木伐採、粗造成、植栽、彫刻移設、駐車場整備、 バスターミナル整備、イベント広場(防災ヤード)整備、町道整備、構内道路整備、調整池整備、サイン整備）	３．７億円
合計	１７．９億円

※北側土地購入費として別途 3.2 億円を支出している。

※補助金は 5.5 億円程度と想定される（概算）。

第５章　管理運営計画

（1）管理運営方式

現在、施設の管理運営は、各施設をそれぞれ別の団体が運営しているが、再整備と並行して施設を一体的に運営していくことができるよう調査、研究を進めていく。

管理運営の状況	施設名	管理運営団体名
友愛の森全体の管理	道の駅「那須高原友愛の森」	那須未来㈱
農産物の販売	農産物直売所	ふれあいの郷直売所組合
那須の食を提供するレストラン	なすとらん	なすとらん倶楽部
工芸品の販売・実演体験	工芸館	那須町工芸振興会
那須ブランド等の販売	物産センター	那須未来㈱

（2）　維持管理費

現在の友愛の森の維持管理費（人件費、光熱水費、消耗品費、修繕費など）は、年間で約 4,000 万円である。財産貸付等による収入が約 1,240 万円あり、差し引き 2,760 万円を町費から支出している状況である。

今後は、友愛の森の売上増加は当然のこと、テナントスペースの貸出しなどによる財産貸付収入の増加、一元化管理と効率化による維持管理費の節減などを行っていく。

※道の駅那須高原友愛の森再整備基本計画は、那須町公式 HP から確認いただけます。

http://www.town.nasu.lg.jp/0242/info-0000000624-1.htm